@Int.Cl.2 B 63 B 21 / 29 B 63 B 21 / 34

和实

)

)

國日本分類 84 C 11

@実用新案出扇公告 昭51-49754

実用新案公報

庁内整理系符 6669 - 36

❷公告 昭和51年(1976)11月30日

(全2頁)

1

60水中アンカー

顧 略47-82157

顧 昭47 (1972) 7月13日 物出

閉 昭49-40996 公

①昭49 (1974) 4月10日 ·

②考 案 巻 出額人に同じ

人 大沢佑吉 の出

寅京部杉並区今川3の5の12

四代 連 人 弁理士 磯野致雄

(出願人において、実施許諾の用意がある)

の実用新案登録請求の範囲

上部に関口部4を有する袋状の答器1の下部周 を上向きにして固定したことを特徴とする木中ア ンカー。

考案の詳細な説明

本業は釣引・ボート・ヨツト等の比較的小さい 所に適する水中アンカーに関するものである。

例えば、ふな釣等の釣川は風や潮に流されない ように舟の3個所位を鉄製フツクアンカー(鑑) 又はこれに代る重石を紐条につなぎ止めて水底に 沈め、一定の位置にとどめておくことが普通であ る。ところが従来のフツクアンカーは、これを水 25 底に引掛けるには具合が良いが、これを引上げる 際、水底に食込んだり、藻等に絡まつたりしてそ のフツクの掛合を外すのが非常に面倒で手間がか る。往々にして鋸綱又はアンカーを損傷するこ ともある。また、重石のアンカーはフツクがない 30 労力が少なくて済み極めて使利である。 から水中で移動するおそれがある。そして、アン カー1個当り約6~7kgを要するから、庫で釣鍋 に選ぶことは別として携帯するには重くて不便で ある。そこで、現場で調達すれば良いが大きな石 は紐条でしばるのが仲々面倒である等の欠点があ つた。

本業は上記の欠点を除く便利なアンカーを得る

ことを目的とする。

図面について説明すると丈夫な布袋又は網袋等 で作つた筒形の容器1の下部外周面に硬い金属板 から成る弾性フック2を調当な関隔をおいてりべ 5 ツト3、ねじ等で先端2,を上向きに固定したこ とを要旨とする。4は容器1の開口部、5はその 開口部周縁に設けた紐条通し孔、6は紐条、7は 布袋1の底部に設けた水抜き孔である。この水牧 き孔の代りに底部全体を縄底にしてもよい。

本案アンカーは、容器1の中に石・鉄塊・砂等 重石になる物を詰め込み、紐条6を錐綱8を介し て第3図示のように例えば母Sの後絃2個所、前 | 枚!個所につないで水底に沈めて使う。沈んだ容 器1は、その複数のフック2の何本かが水底に引 面に複数の商金属板製弾性フツク2をその先端2 25 掛かつて舟Sを停止させる。そして容器1を引上 げるときは、鯖綱8を引張つてフツク2の掛合を 外すのであるが、ある一定以上の方がかゝるとフ ツク2の先端部2」が適度の弾性により下方にの びて掛合が外れる。その先端2、は外れた後、ま 20 た原形に復元する。

> 本案は上記の構成であるから、アンカーの固定 効果は従来のフックアンカーと同様であるが、そ の掛脱媒作はフックの適度の弾性により従来のも のより取扱いが榧めて簡単であり、紐条やアンカ - 一を損傷することがない。また、袋物1の中には 大きな石は勿論のこと、砂・小石・鉄塊等重石に なるものは何でも収容できるから、空の軽い袋物 だけ携帯し、現地で詰め込むことができる。従つ て、わざわざ重い石等を携行する必要がないから

なお、布製容器1の底部に水抜き孔7を設けた 場合において、砂又はこまかい石等を重石にする ときには、そのま、入れたのでは流失してしまう から、内底にピニールシート又は釋板等を倣いて が常にあるとは限らない。また、あり合せの石で 35 から詰めるものとする。また、容器↓を網袋状に したときは、その網目より大きい石等を重石にし て詰めることになる。

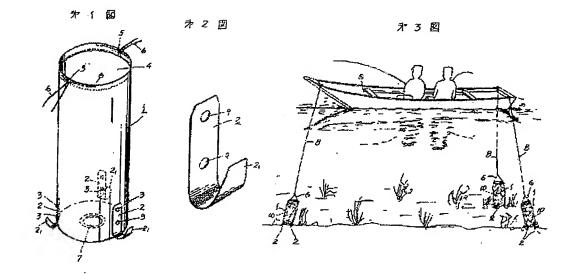
吴公 昭51-49754

3

図面の簡単な説明

第1図は本業水中アンカーの斜面図、第2図は そのフツクの斜面図、第3図は使用例を示す斜面 図である.

1 ……容器、2……フツク、5……紐条通し孔、 6……紐条、7……木抜き孔。



-234-